

スクールアクション・プラス 指導マニュアル

| | | | | | | | | | |
|-----------|------|-----|------|----|----|------|----|----|---------|
| 自治体(市町村名) | △□市 | 学校 | 小 | 校名 | ○○ | コウメイ | ○○ | 期間 | 平成 年 学期 |
| 氏名 | ○○○○ | シメイ | ○○○○ | 性別 | | 学年 | | | |

分析結果から

プレテストからの単元理解の特徴

繰り上がりのある二桁の足し算で誤答。解答の様子から一桁同士の計算から困難が始まったと思われます。指を使いながら解答することも多く、暗算が出来る段階に達していない様子です。

学習上の特徴

- 指導者の教示を理解する際、使用する言語そのもののレベルが限定されます。抽象的な言語や各単元で必要な算数用語を使っての教示では概念理解にたどり着くことは難しいと思われます。
- 概念理解とは別に、計算や作図等の作業そのものの指示の理解に配慮が必要です。
- 教示の際、音声言語のみに依存するスタイルでは瞬間的に理解はできるものの、自分でやる段階になるとわからなくなることが多いです。
- 一度間違えた理解をしてしまうと、自分で軌道修正することが難しいです。
- 一旦立ち止まって思考することが苦手で、瞬間的なひらめきに依存してしまいます。

その他の特徴

集中力を維持するために適宜休憩の取り方が大事です。ここまでやったら休憩というスタイルよりも最初は1題終わる毎に少し休み、徐々に最適な休憩のタイミングを見つけて行きましょう。

学習支援で配慮・留意すること

開始単元

一桁と一桁の繰り上がりのない足し算

指導上の配慮

- 例示の際は具体例を三個以上上げて、例示の理解を繰り返しながら理解を深めて一般化していく方法が望ましいです。ひとつの例示で全てを理解する方法はできるだけ避ける必要があります。
- 本児の一旦立ち止まって思考することが苦手な特徴に合わせ大問あたりの問題数を絞って教材を作っているの、作業時間の遅延は気にせず、納得できるまでまたは終わりまで支援者の介入は少なくして下さい。
- 具体的な(目に見える)教示を増やし、概念化や一般化を意識した抽象的な表現を避けて下さい。
- 間違える自分で軌道修正が難しいことから自己評価が低いことから、できないことの体験を避けできていることを担保してから次に進みましょう。理解できているか不明なまま次に進めていくことは避けたほうが良いと思われます。
- 誉めるときは、具体的かつ詳細な部分を取り上げましょう。
 良い例「この繰り上がりのところは難しいのに良くできたね」、「普通ここまでできる人はいないよ」
 悪い例「良くできたね」、「頑張ったね」、「立派だね」※具体的ではありません
- 間違えたときは、責任を外在化しましょう。
 例「この問題がおかしいよね」、「今日は少しやり過ぎたからね」
- しばらくは自力でできる内容に特化して誉めることを積み重ねることが必要です。

その他の配慮・留意事項

本児の特徴から、「頑張る力」を育むために量や難易度を上げて耐えることを強いる方法が一般的です。しかし自己評価が非常に低いタイプであることを考慮すると、確実にできる単元から始め、モチベーションを上げることを優先し、かつ「鍛える」のではなく「配慮」した学習指導が望ましいと考えます。トークン形式を利用して、1つの単元(またはプリント)を終了する毎にスタンプを押し、スタンプラリーのようにゴールを目指すなど有効な手法と思われます。

年間の目標

| | | | | | | | | | |
|-----|------|-----|------|----|----|------|----|----|---------|
| 自治体 | △□市 | 学校 | 小 | 校名 | ○○ | コウメイ | ○○ | 期間 | 平成 年 学期 |
| 氏名 | ○○○○ | シメイ | ○○○○ | 性別 | | 学年 | | | |

一学期の目標

| | |
|---------|--|
| 目標 | |
| 配慮・留意事項 | |

二学期の目標

| | |
|---------|--|
| 目標 | 一桁同士の足し算の暗算ができる(繰り上がりなしからありまで)。 |
| 配慮・留意事項 | <p>①「(1)は2たす4だから。えーと(目をつぶって頭の中で数えている様子を見せる)6かな?」。そして、解答欄に6と書きます。※既に頭の中でイメージできているので視覚的な補助教具は一切使わないこと。</p> <p>②「じゃあ、一緒に頭の中で計算してみよう。(2)の3たす2はどうなるかな? 言ってみてくれる。」と声かけをして口頭(※)で解答してもらいます。※書かせると余計な作業が入ってしまうので避けること。</p> <p>③口頭で答える暗算に慣れたら[1]にもどり「2たす4はどうなるかな? えーと…」と声かけをして、口頭で解答してもらった後に解答欄に書いてもらう。</p> <p>④そのままリハーサルを続けてください。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己評価が低いことへの配慮を忘れずに。 ○プレッシャーを与えないよう頭の中で考える時間を特に充分とれるよう配慮。 |

三学期の目標

| | |
|---------|--|
| 目標 | 一桁同士の引き算の暗算ができる(繰り下がりなし) |
| 配慮・留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○暗算計算の練習は二学期と同様に。 ○自己評価が低いことを留意 <p>誉め方や間違えたときの言葉掛けの工夫</p> |

年間のまとめ

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|